

# 平成 29 年度 静岡福祉文化を考える会 活動報告

## 活動テーマ：「ご近所福祉で集まる地域ぐるみの居場所を拓く」

本会は、「福祉を文化にする，静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）とは何かを検証する活動の原点に戻り，平成 29 年度は，ふじのくに未来財団助成事業，静岡トヨタ自動車（株）ハイブリッド基金助成事業，静岡県社会福祉協議会・ふれあい基金事業，あしたの日本を創る協会「生活会議」新しい地域課題助成事業等の支援をいただき，22 年目の活動を展開することができた。平成 28 年度に「ご近所福祉」を問い，その延線上で，今年度は「居場所」をキーワードに，県内各地域や各地の各種研修会で「ワークショップ方式」等により，意見交換や討論を交えた多様な学習方法を提案し，世代を越えて地域の課題解決に向けた「地域総合型学習」を実践した。

本会の理念と活動基調をもとに，情報の共有，広報啓発，人的交流，プロセスを重視し，専門性と市民性を融合し，人々が支え合って暮らし合う理論と実践を融合する活動に取り組むことが出来た。

地域の担い手は，いったい誰か，「共助」による，市民主体の地域活動を問い質しながら，「真の居場所」は，本来家庭にあるはずが，弱体化した家庭機能を「地域をいかに，家庭機能化していくことができるか」の地域課題が浮き彫りになった。中でも，今日，各地で，福祉問題解決に向けた各論的（高齢者対象，障がい者対象，子育て対象，青少年対象等）「福祉課題別居場所」が多く誕生している。

本会では，改めて，コミュニティそのものの機能を発揮した「地域ぐるみの居場所」とは何かを調査研究活動や公開型研修会の取り組みから，県民の意識と実態を明らかにし，福祉コミュニティの構築に県民一人ひとりが関わることの重要性を明らかにし，支え合う地域をいかに創るかを明らかにする努力をしてきた。また，本会活動を多く公開型で意見を求めるために「共創社会研究会」を設置して，課題提起を深めることも出来た。

特に，平成 29 年度は…

- (1) 現状の組織体制を維持し，着実に「福祉文化の創造」に向けた実践活動に取り組んだ。
- (2) 「若者発“居場所”あり方研究会」（常葉大学同好会）とは，日常的な連携を維持し，これまで本会が課題提起をしてきた「若者の地域参加」，「居場所」をより具体的に実践していくよう呼びかけるとともに，本会の活動に積極的に参画できる環境づくりに努めた。
- (3) 市民主体のコミュニティ構築の必要性を，各活動項目に随所に強調し，地域における住民主体の「地域総合型学習」の取り組みと連携を深めた。
- (4) 福祉コミュニティ再構築に向けた県民の意識と実態把握事業  
ーささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりの提言ーを課題し，これからの福祉コミュニティ再構築のキーワードを「居場所」とし，既存の「居場所」の現状把握と，問題提起を持ち，県民の意識と実態を把握し課題提起をした。
- (5) 「共創社会研究会」を設置し，広く意見を求めた。

### 1. 平成 29 年度全体会（総会／公開型研修会）の開催（30 名参加）

- 開催日時：平成 29 年 5 月 21 日（日）13:00～16:00
- 開催会場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
- プログラム：
  - (1) 報告「協働による福祉文化実践活動の展開」
  - (2) 調査結果報告「ご近所福祉 その意識と実態調査 結果から見えたもの」
  - (3) 円卓トーク「真の居場所を探る 大人の言い分 若者の言い分」

## 2. 委員会の開催

- \* 実務型委員会構成を基に、[代表][副代表][事務局・次長・スタッフ][会計][監事][委員][会員]が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努めた。
- \* 「ご近所福祉と居場所を探る」をテーマに、ご近所福祉かるたの有効活用の研究協議と共に、「若者発“居場所”あり方研究会」との協議に取り組んだ。
  - 第183回 05月21日(日) 10:00~12:00 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
  - 第184回 08月06日(日) 13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
  - 第185回 08月26日(土) 13:30 静岡市葵区駿府町 静岡県総合福祉会館内
  - 第186回 09月30日(土) 10:00 静岡市葵区駿府町 静岡県総合福祉会館内
  - 第187回 11月25日(土) 10:00 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
  - 第188回 01月13日(土) 13:00 静岡市葵区駿府町 静岡県総合福祉会館内
  - 第189回 03月04日(日) 10:00 静岡市葵区駿府町 静岡県総合福祉会館内
  - 第190回 03月10日(土) 10:00 静岡市葵区駿府町 静岡県総合福祉会館内

## 3. 共創社会研究会の設置と運営

### (1) 開催時期

- 第1回 09月09日 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室
- 第2回 11月11日 静岡県総合社会福祉会館 102 会議室
- 第3回 01月13日 静岡県総合社会福祉会館 104 会議室
- 第4回 03月10日 静岡県総合社会福祉会館 602 会議室

### (2) 構成

世代・領域を超えた構成で、市民主体の議論  
本会会員(5名)、県内実践者(3名)、社協職員(2名) 計16名

### (3) 議論内容

- 研究会の位置づけと方向性、地域の現状、課題、調査実施
- 調査実施要項、調査個票、調査実施、調査結果考察
- 実践地区検証、公開型研修会結果考察
- 事業全般考察(提言)

## 4. 実践活動として、「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用による「ご近所福祉」の検証

7年間の県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」から浮き彫りになった“ご近所福祉の再構築”を若者の視点から議論を深め、提言された読み札を精査し、「若者発“居場所”あり方研究会」の全面的な支援のもとに「かるた」の創作に取り組み、平成27年度に「若者発 ご近所福祉かるた」を100セット作成し、2年目を迎えた。また平成28年度に作成した「若者発 ご近所福祉かるた 拡大版」2セットを「ご近所福祉」や「地域ぐるみの居場所」を検証する学びの場として有効に活用した。

## 5. 「若者発“居場所”あり方研究会」との連動と協働の呼び掛けと実践

常葉大学同好会として、自主的活動に発展した「若者発“居場所”あり方研究会」との連携を維持し、協働による福祉文化実践活動(本会主催の各種研修会・事業への参加呼び掛け)が出来るように、情報を共有(定例委員会への出席呼びかけ)し、「ご近所福祉」、「地域ぐるみの居場所」に関わる研究協議の場をその都度設定できるように努力した。特に、今年度は、「居場所ってなに? その意識と実態調査」には8名の会員が精力的にデータ入力及び考察作業に参画した。

## 6. 居場所活動訪問検証事業

最近開所した県内 6 地区の居場所実践地区を検証し、プロセスとともに課題解決に向けて取り組み、報告書にまとめた。

- ① 東部（住民とコミュニティ組織による協働での取り組み）
- ② 東部（自宅開放型から地域活性化に向けた取り組み）
- ③ 中部（町内会・自治会を基盤とした取り組み）
- ④ 中部（当事者的視点からの取り組み）
- ⑤ 中部（施設機能の社会化の取り組み）
- ⑥ 西部（障がい者支援と地域拠点の取り組み）
- ⑦ 西部（居場所立ち上げ検討協議の取り組み）

## 7. コミュニティ組織との連携

コミュニティ組織との連携に努め、「ささえあい講座」の運営に関わり、広く住民の意見を把握するための機会を持った。

- 住民主体の啓発学習の取り組みのプロセス
- 住民主体の居場所の取り組みの検証
- 住民の意見集約

## 8. 「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくり」報告書作成

(1) A4 版, 64 ページ仕立て, 200 部

(2) 主な章立て

- はじめに
- 「共創社会研究会」論議
- 公開型研修会からの成果
- 提言
- 「共創社会研究会」論議
- 資料編
- 調査結果から見えたもの

(3) 配布計画

- 協力団体（社会福祉協議会）
- 企業
- 関係機関（県・市町）
- 関連福祉団体
- 関連大学専門学校

## 9. 啓発学習活動

「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みを「公開型研修会」「公開型学習会」として開催する。

(1) 公開型学習会の開催

「定例委員会」（年 5 回）を「公開型学習会」と位置づけ、誰でも自由に参加できることを呼びかけ、市民・会員相互の情報交換の場及び日常的な実践活動につなげる。

(2) 公開型研修会の開催

できる限り、小地域の生活圏域で地域の課題解決に向けた話し合いの場を創り、「生活圏域の地域での福祉文化論議（生活会議）」の取り組みを「ご近所福祉と地域ぐるみの居場所」と置き換えて、自由に市民が参加できる「公開型研修会」を開催する。

- 第 1 回 5 月 21 日（日）13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」（30 名）  
研修テーマ：「ご近所福祉と居場所」
  - ① 基調報告「協働による福祉文化実践活動の展開」
  - ② 円卓トーク「真の居場所 大人の言い分 若者の言い分」

- 第2回 9月30日(土) 13:30 静岡市葵区駿府町 県総合福祉会館 601 会議室 (40名)  
研修テーマ:「ささえあう地域ぐるみの“居場所”づくりを拓く」
  - ① 基調報告
  - ② 実践活動に学ぶ
  - ③ ワークショップ
  
- 第3回 3月4日(日) 13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」(40名)  
研修テーマ:「今なぜ居場所か」
  - ① 報告「地域ぐるみの居場所をめざす」
  - ② グループワーク「一人でも安心して暮らせる地域づくりを考える」

(3) 「第16回 静岡県福祉文化研究セミナー」の開催 (30名)

- 日時: 11月25日(土) 13:30~16:30
- 会場: 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
- テーマ:「静岡発 福祉文化の創造とほっとする居場所」
  - ① 基調報告 その1「福祉文化研究セミナー16年を振り返る」
  - ② 基調報告 その2「地域の居場所 その意識と実態を探る」(経過報告)
  - ③ ワークショップ「ほっとする私の地域 ほっとする私の居場所を探る」

## 10. 調査研究活動

- (1) テーマ:「居場所ってなに? その意識と実態調査」の実施  
 (2) ねらい:

「静岡福祉文化を考える会」は、この21年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組んでいる。また、その分析結果を、県内各方面で、研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、

- 平成09年度 ①「共働きに関する調査」
- 平成10年度 ②「私たちにとって、地域とは何かーその1ー意識と事態調査」
- 平成11年度 ③「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 平成12年度 ④「父親に関する調査」
- 平成13年度 ⑤「ボランティア活動実践者意識調査」
- 平成14年度 ⑥「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 平成15年度 ⑦「青少年の生きがいに関する調査」
- 平成16年度 ⑧「地域とは何かーその2ー意識と事態調査」
- 平成17年度 ⑨「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)
- 平成18年度 ⑩「子どもと社会環境に関する調査」(総括)
- 平成19年度 ⑪「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 平成20年度 ⑫「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」(静岡県共同募金会助成事業)
- ⑬「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 平成21年度 ⑭「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成22年度 ⑮「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合いとはなにか本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 平成23年度 ⑯「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成24年度 ⑰「家族ってなに その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成25年度 ⑱「長寿者をつながる ホットするご近所づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 平成26年度 ⑲「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)

➤ 平成 27 年度 ㊸「若者の地域参加その意識と実態調査」

➤ 平成 28 年度 ㊹「ご近所福祉 その意識と実態調査」

と、「21 のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。通算 22 回目となる今年度は、これまでの展開を継承しつつ、「居場所ってなに？ その意識と実態調査」に取り組んだ。

(3) 調査項目は、(1)基本属性、(2)住民の生活状況、(3)地域との関わりの意識、(4)地域との関わりの実態、(5)地域を取り巻く望ましい生活環境、(6)地域の意識・実態、(7)提言（自由意見）の 7 項目とする。細部は「共創社会研究会」で具体化する。

(4) 調査の展開：

① 調査実施期間……09 月～10 月

② 入力期間………10 月～11 月

③ 分析・考察………12 月～01 月

④ 公表………02 月

(5) 協 力：若者発“居場所”あり方研究会 共創社会研究会

(6) 対 象：静岡県内の 10 代以上の県民（年代・世代・領域等を考慮）

(7) 回収実績：1,443 名

(8) 調査依頼／配布方法（2,000 名に依頼）

①会員（現在 24 名）、②若者発“居場所”あり方研究会、③関係団体、④企業

## 11. 広報・啓発活動

(1) 「機関紙発行計画」に基づく『Our Life』の発行

① 年 6 回、A4 版、4 ページ構成、上質紙印刷、200 部発行

② 各号共通記事：「コラム」「事務局日誌拝見」「編集後記」

➤ 第 111 号（07/05） 『ご近所福祉から居場所を探る』

➤ 第 112 号（08/30） 『福祉コミュニティ活動支援協力からの学び』

➤ 第 113 号（09/25） 『第 1 回共創社会研究会で居場所論議を深める』

➤ 第 114 号（10/25） 『第 16 回 福祉文化研究セミナーからの学び』

➤ 第 115 号（12/01） 『1,4431 枚の調査票回収、いよいよ集計から分析へ』

➤ 第 116 号（01/31） 『第 3 回共創社会研究会で居場所論議を深める』

➤ 第 117 号（03/25） 『22 年の道程を総括』

③ 「居場所」をテーマとした課題提起、地域・団体/グループとの連携の状況、各地区への居場所実践活動の取り組み等を紹介した。

(2) マスコミ、関係団体への情報提供

## 12. 関係・団体との連携

(1) 「若者発 ご近所福祉かるた」及び「拡大かるた」設置団体等との日常的連携（施設、NPO 法人、V グループ）

(2) 「若者発“居場所”あり方研究会」との協働

(3) あしたの日本を創る協会との連携（助成事業の進捗状況報告）

(4) 日本福祉文化学会との情報交換

(5) 関連大学・専門学校への情報提供

(6) 静岡県社会福祉協議会（ふれあい基金助成事業進捗状況報告）への報告

(7) 静岡市ボランティア団体連絡協議会との連絡調整

(8) ふじのくに未来財団との連携（助成事業の進捗状況報告）